

口蹄疫からの見事な復活 宮崎県高鍋町・牛牧開拓

宮崎県児湯郡高鍋町は県中央部の海沿いの町だが、牛牧開拓は町の西部の高台にある。
47 年に海外からの引揚者や復員軍人など 31 戸が入植した。

この地は、高台地にあり、大部分は開畑されている中、町有林、民有林として残存していた場所を、開拓適地として買収した。1 戸当たりの配分面積は 0.8～1 ha となっていた。

当初は夏作としてサツマイモ、陸稲、冬作として麦、なたねを作付けしていたが、収益の向上を図るため、55 年頃からサツマイモの早植えを行うことによって次第に夏作型のみの作付けに移行していった。

また、牛牧地区では養蚕が導入され、営農の進展が図られてきた。

この間、肥育牛の生産が徐々にではあるが、着実に伸びていった。66 年に生産体系が確立された開拓牛（乳用種去勢牛）の生産も広がっていった。

宮崎県乳用牛肥育事業農業協同組合が 72 年に設立され、1 県 1 単協の広域専門組織として新たな船出となった。

80 年に「開拓之碑」が入植者らによって建てられた。辛い時でも皆の励まし合いで、未来ある新しい天地となったこの牛牧開拓を讃えている。

90 年代になると、交雑種肥育牛や和牛の生産も伸びてくる。

様々な品種で肉牛生産が発展していったが、2010 年、宮崎県で 10 年振りの口蹄疫が発生してしまった。消毒等の防疫体制を行っていても侵入され、宮崎県全てで約 30 万頭の牛や豚等が殺処分となった。

高鍋町の開拓肉牛農家 3 戸の 3,588 頭も、全頭いなくなってしまった。牛のいない牛舎で、消毒作業を毎日こなすのは、当事者以外には到底わからない苦痛であろう。

しかし、3 農家は決して諦めなかった。共に励まし合いながら、着実に復活への道を進んでいった。様々な支援措置もあったが、先人からの魂を受け継いだ証名だ。

現在も牛舎には、立派な牛達が成長している。

牛牧（うしまき） 45-401-1

①調 査 日 令和6年9月25日

②所 在 児湯郡高鍋町南牛牧

③地 区 の 沿 革 高鍋町南牛牧地区は昭和22年に31戸が入植。

④設 置 年 月 日 昭和55年9月23日

⑤設 置 者 入植者

⑥碑文（表面） 開拓之碑

⑦碑文（裏面） 第二次大戦後緊急開拓事業ハ / 食糧増産農地改革ト共ニ新 / 生日本ノ
礎ダッタ / 昭和二十二年二月十一日海外引揚者 / 復員軍人三十一戸入植シ五十六町余
ノ / 荒地ヲ永遠ノ故郷トスベク開墾 / 鋤ヲ手ニ山地ヲ開墾ス / 衣食住凡ノ欠乏ニ耐エ
颱風旱魃凍 / 霜害等ノ災害ト戦イ相集イ相励 / シ荒地ヲ沃土トナス官民各位ノ暖イ /
指導ト協力ニ依リ必須ノ道路七 / 四通シ南牛牧開拓地ハ未来アル新 / 天地トナッ
タ / 鋤入式以来星霜爰ニ三十有余年 / 顧ニ快事タルモノ有リ / 此ノ意義アル事業
ヲ悠久ニ傳エ / シモノトシテ同志ノ熱意ニ依リ / 此ノ碑ヲ建立ス

昭和五十五年九月二十三日

⑧現 在 の 状 況 南牛牧公民館の敷地内に有り維持管理されている